

いで 議会だより

第 97 号

2026年（令和 8 年）

7月発行



第 17回井手町フットサル大会

6月定例会で決まった主なこと	2 P
町政を問う	3 P
議長のページ	13 P
委員会報告等	14 P
議会の主な公務	15 P
いでたんが聞く	16 P

6月定例会で決まった主なこと

公民館増改築に伴う公民館改修補助を計上

令和8年6月10日から17日まで6月定例会が開かれ、補正予算などを審議しました。

改正した条例

井手町消防団員等公務

災害補償条例の一部を

改正する条例

非常勤消防団員等に

係る損害補償の基準を

定める政令の一部を改

正する政令の施行に伴

う条文の整備。(葬祭

補償の金額改定)

708万6000円。

一般会計(第2回)

補正総額は100万円

の追加で、補正後の総額

は、52億2808万60

00円。

主な内容

公民館改修補助

348万4000円

西部区公民館の雨漏り

対策のための外部改修

と、石垣区公民館の老朽

化した空調の改修に対し

補助を行うもの。

同意案件

井手町監査委員

小川 忠弘 氏

井手町公平委員

寺井 正行 氏

井手町教育委員

古川 幸子 氏

井手町農業委員

奥田 俊夫 氏

令和8年度
補正予算

一般会計(第1回)

補正総額は5391万

40000円の減額で、

補正後の総額は、52億2

△6400万円

多賀小学校外壁改修

国の令和7年度補正予

算による交付金の内示を

受けて、令和8年度予算

から減額するもの。

令和8年6月定例会 議案・議決結果一覧表

審議結果等は次の通りです。(○=賛成 ×=反対 —=欠席または退席) *脇本尚憲議長は、採決に加わっておりません。

議案番号	件 名	議決年月日	議決の結果	議 員 名							
				鶴田慶祐	中谷祥彰	岩田幸子	加賀山睦	木村健太	谷田健治	鎌田隆宏	田中保美
議案第33号	井手町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例制定の件	令和8年 6月17日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第34号	京都地方税機構規約の変更について	令和8年 6月17日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第35号	令和8年度井手町一般会計補正予算(第1回)	令和8年 6月17日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第36号	令和8年度井手町下水道事業会計補正予算(第1回)	令和8年 6月17日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第37号	井手町監査委員選任につき同意を求める件	令和8年 6月10日	同 意	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第38号	井手町公平委員選任につき同意を求める件	令和8年 6月10日	同 意	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第39号	井手町教育委員選任につき同意を求める件	令和8年 6月10日	同 意	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第40号	令和8年度井手町一般会計補正予算(第2回)	令和8年 6月17日	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第41号	井手町農業委員任命につき同意を求める件	令和8年 6月17日	同 意	○	○	○	○	○	○	○	○
報告第10号	繰越明許費繰越計算書について(7 一般会計)	令和8年 6月10日	報 告	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和8年度城南土地開発公社事業計画に関する報告書について	令和8年 6月17日	報 告	—	—	—	—	—	—	—	—

町政を問う

おく だ とし お
奥田 俊夫 議員 (4P)



- ◆ 桜を含む樹木の保全
- ◆ 多賀地区駅前商業施設の今後

たに だ けん じ
谷田 健治 議員 (5P)



- ◆ シルバー人材センター設立
- ◆ 井手町公営住宅等の現状と長期的計画

いわ た ゆき こ
岩田 幸子 議員 (6P)



- ◆ 本町における子育て支援の更なる充実
- ◆ 地域共生型「人材・居場所センター」の設置
- ◆ 図書館利用の活性化に向けた移動支援

か が やま むつみ
加賀山 睦 議員 (7P)



- ◆ 令和8年度当初予算における重点施策
- ◆ 適切に管理されていない一般住宅・空き家への対策
- ◆ IDECA (いでか) の利用対象拡大

た なか やす み
田中 保美 議員 (8P)



- ◆ 井手町における「インクルーシブ教育」
- ◆ 井手共同墓地の維持・管理

なか たに よし あき
中谷 祥彰 議員 (9P)



- ◆ 「井手町地域創生計画 井手町人口ビジョン」

き むら けん た
木村 健太 議員 (10P)



- ◆ 本町公式LINE機能拡充による運用
- ◆ 空き家対策における、解体・改修補助制度の柔軟な運用と拡充

つる た けい すけ
鶴田 慶祐 議員 (11P)



- ◆ 夜間の道路照明環境の改善と定住促進への影響
- ◆ 行政DX推進と住民サービスのデジタル化
- ◆ 空き家対策の加速と地域資源としての活用

かま た たか ひろ
鎌田 隆宏 議員 (12P)



- ◆ プロスポーツチームとのホームタウン協定
- ◆ 国道24号「城陽井手木津川バイパス」の進捗状況と、今後の見通し

井手町
ホームページ
会議録集
QRコード



令和8年9月定例会の
日程はホームページ等で
ご確認ください。



おく だ とう お
奥田 俊夫 議員

玉川堤の桜並木の保全是

奥山産業環境課長

定期点検と専門家診断で
計画的に維持管理

問 玉川堤の桜に対する樹木診断や安全点検の実施状況は。

答 観光資源として日常的に巡視・点検を実施。「玉川の桜保存管理事業」により井堤保勝会が状態を確認し、必要に応じて対応している。さくらまつり前にも安全確認を実施。

問 倒木リスクに対す

る本町の認識は。

答 樹木の高齢化に伴う倒木・落枝事故が全国的に増加している状況を認識。必要に応じ樹木医の診断を受けながら安全確保に努める。

問 伐採や植え替えによる計画的な樹木の世代交代についての考えは。

答 玉川堤の桜は昭和28年の南山城水害後、復興のシンボルとして植樹されたもの。景観保全と治水上の安全確保を両立するため、河川管理者の京都府と十分に協議し、計画的な維持管理の在り方を検討する。

問 保育園・町立小中学校における桜の木の点検等は。

答 各園・各校で職員・教職員が日常的



倒木や枝折れが心配される樹木

に目視点検を行い、樹木の状況に応じて専門業者による剪定・伐採等を実施。安全確保を第一に関係課と連携する。

多賀駅前商業施設「イデフル」の今後は

西島町長

中坊税住民課長
奥山産業環境課長
坂井企画財政課長

まちの持続的な発展に資する
企業誘致に取り組む

問 イデフルにより本町の税収はどうか変化したか。

答 固定資産税及び都市計画税は、令和7年度が約1500万円の税収見込み。

令和8年度は償却資産の減価償却の影響で約1400万円の見込み。法人町民税は、令和6年度は約20万円、令和7年度は約170万円の見込み。令和8年度も令和7年

度と同程度を見込む。

問 町民から寄せられている「飲食店の充実」の声をどう受け止めているか。

答 地域住民の憩いの場や、賑わいの創出、地域経済の活性化やコミュニティの醸成につながる重要な要素と認識。施設運営事業者や町商工会と連携し、誘致に向けた環境整備・情報発信に取り組む。

問 敷地内における空き区画の状況は。

答 現時点で5区画。区画数や面積は出店希望者との協議により柔軟に変更可能とのこと。

問 事業者とのニーズ共有や追加出店を協議する場はあるか。

答 これまでから施設運営事業者と相談・情報共有を行っており、打ち合わせなど適時協議している。



飲食店の出店が望まれるイデフル

問 イデフル南側（前川筋より南）での新たな開発計画は。

答 現時点で具体的な計画はないが、持続可能で活力あるまちづくりに向け、引き続き事業者誘致に取り組む。

問 医療関係の開業に対する本町の考えは。

答 医療環境の充実は住民が安心して暮らすために必要と認識。施設運営事業者が医療機関を含む業種の出店募集を行っており、状況を注視する。



谷 田 健 治 議員

「シルバー人材センター」の設立は

辻井福祉課長

設立には課題がある

問 府内自治体における「シルバー人材センター」設立状況は。

答 府内26市町村の内、24市町村で設立されている。

問 本町住民が近隣の「シルバー人材センター」に依頼した過去3年間の件数・内容は。

答 令和5年度から令

答 本町の人口規模から継続的に一定の発注数が確保できるのか、担い手が集まるのか、また、地元業者との競合などの課題があると考えている。



近隣シルバー人材センターに依頼がある草刈り

若者・子育て世帯向けの町営住宅等の建設は

高江同和人権政策課長

新たな町営住宅を建設する必要性は低い

問 町営住宅の種類別戸数及び府営住宅の戸数は。

答 町営の公営住宅は50戸、改良住宅は160戸、府営住宅は42戸である。

問 入居戸数と空き家戸数は。

答 令和8年5月末時

点の入居戸数は186戸、空き家戸数は66戸である。

問 井手町が管理する公営住宅駐車場の契約状況は。

答 全95区画のうち77区画を利用。

問 住宅使用料、駐車場使用料の収納状況は。

答 令和7年度の収納額、徴収率の見込みは、住宅は3397万8000円、96・20%、駐車場は90万3000円、99・78%である。

問 用途廃止後の活用として、若者・子育て世帯向けの「住宅」を建設する考えは。

答 最近の町営住宅等の入居者募集において、若者・子育て世帯が申し込める住宅が残っている状況であることから、現時点では新たな若者・子育て世帯向けの町営住宅を建設する必要性は低いと考えている。

答 防災広場などの活用方法を検討している。



北団地3号棟



いわ
た
ゆき
こ
岩田幸子議員

子育て支援の更なる充実は

花木子育て支援課長
梶田学校給食センター所長
北川学校教育課参事

早くから町独自の施策で
取り組んでいる

問 保育園入園時に
いても通園力バンの支
給は。

答 他自治体の取り組
み事例などを情報収集
し研究していく。

問 牛乳アレルギーの
ある保育園児は代替
食で豆乳を支給してい
るが、小学校児童にも
豆乳を支給出来ないか。

答 児童・生徒一人ひ
とりの状況や特性に

問 不登校児童・生徒
が増加している中、フ
リースクール利用補
助制度の検討は。

答 保護者面談の際、
要望がなく実施してい
ないが、今後豆乳等の
代替飲料について、保
護者の意向も確認し検
討していく。

応じ、多様な学び
の場は重要。現時
点では補助制度検
討には至らないが、
不登校児童・生徒
への校内支援体制
の強化・充実に努
める。



1人も取り残さない学校教育

地域共生型「人材・居場所センター」 の設置について

辻井福祉課長

互いに協力しながら安心して
暮らせる地域づくりが重要

問 「居場所」と「就
労支援」を組み合わせ
た地域共生型拠点づく
りについての考えは。

答 「支える側」「支え
られる側」という枠を
超え、互いに協力しな
がら安心して暮らせる
地域づくりが重要。国
においても多様なニ
ーズに対応するための支
援体制整備促進のため、
社会福祉法を改正する
動きもあり、その動向

を注視しながら、拠点
づくりの調査・研究を
進めたい。

問 「むすび家ide」
や「旧役場庁舎」を活
用する考えは。

答 今年度より京都産
業大学の「いで応援隊」
が寺子屋事業を再開予
定。旧庁舎については
「旧庁舎あり方検討会
議」において今後の活
用方法等を検討。

図書館利用の活性化に向けた 移動支援は

寺井社会教育課長

既存の枠組みを最大限活用

問 図書館を利用され
る方々の交通手段につ
いて把握しているのか。

答 集計を取っていない
ので把握していない。

ずとも幅広く図書館の
本を借りれるように、
老人福祉センター「玉
泉苑」「賀泉苑」に週
1回「出張貸出サービ
ス」を実施。

問 幅広く利用できる
よう、1日2往復程度
の実証運行を行うなど、
循環型の移動支援サー
ビスの導入は。

答 町図書館に来館せ
る。また小中学校におい
て「学校図書館ネット
ワーク」を構築してお
り、児童・生徒が町図
書館の借りたい本を学
校図書館で検索し、そ
の本を学校で貸出でき
る。



整備の整った図書館へ行く手段は



加賀山睦 議員

当初予算における重点施策は

西島町長
花木子育て支援課長
坂井企画財政課長
辻井福祉課長

よりよい未来を創るための
事業に取り組む

問 デジタル技術を活用した観光案内整備の目的と期待される効果は。

答 来訪者に観光情報をはじめ、町からの情報を視覚的にわかりやすく発信でき、まちの周遊観光の更なる促進につながる。

問 高齢者移動支援補助の具体的内容と今後の方向性は。

答 婚姻した世帯を対象に、新生活に係る経済的負担の軽減を図ることだけでなく、補助

答 運転員や配車管理員の人件費、車両のリース代、燃料代等に必要な経費の補助を行っており、社会福祉協議会と情報共有し、必要な支援を行う。

問 井手町結婚新生活支援事業の狙いと定住促進への効果は。

金申請後、5年以上の居住も要件であることから、若年世帯の定着

と転入促進に繋がるものと考えている。

適切に管理されていない一般住宅・空き家への対策は

奥山産業環境課長

関係機関とも連携し対応

問 適切に管理されていない樹木等が住民生活や周辺環境に及ぼす影響についての認識は。

答 住民生活に様々な影響が生じていることは認識している。

問 相談や苦情に対する対応は。

答 現地確認、道路への支障や危険性の有無を把握し、所有者または管理者に対し、剪定、伐採等をお願いしている。緊急性が高く、通

行の安全確保に支障があれば、必要最小限の応急対応を行うなど、状況に応じた対応に努める。

問 町道等の安全確保や生活環境の保全に向けての今後の対策は。

答 所有者等による適切な維持管理が基本。広報紙やホームページを通じて周知啓発を図る。関係機関と連携を図りながら、地域住民の安心・安全な生活環境維持に努める。



町道及び近隣まで伸びる樹木

IDECA（いでか）の利用対象拡大は

辻井福祉課長

実施主体において
判断していただく

問 ケアハウス入居者の移動支援の必要性について町の認識は。

答 高齢による衰えにより社会参加が困難にならないよう、利用者の身体状況等に合わせた支援は必要と考える。

問 ケアハウス入居者のIDECAの利用について、町が関係機関と協議・調整する考えは。

問 社会福祉協議会と施設側の間での対応が進んでいない状況についての町の受け止めは。

答 移動の必要性について、議員から指摘があったことをそれぞれの実施主体に対して伝える。



高齢者の移動支援に活躍するIDECA



田中保美 議員

井手町における「インクルーシブ教育」について

中田教育長

積極的に取り組んでいきたい

問 これまでの小・中学校と井手やまぶき支援学校との交流はどのようなことを実施されてきたのか。

答 井手やまぶき支援学校の開校以来、毎年交流学习を継続している。内容としては田植え、音楽交流、給食交流、パラバルーン、モノづくり、フットサル、ボッチャ等スポーツ交

流など実施。

令和7年度は「インクルーシブ教育」の理念の共有と深い理解」を目的に合同教職員研修会も実施してきた。

問 「インクルーシブ教育」についての本町の考えは。また今後、どのように進めていくのか。

答 小・中学校と井手

やまぶき支援学校との交流をさらに充実させるため、すべての児童・生徒に対し「共に学ぶ活動」を増やし、社会性やコミュニケーション能力を育み、共生社会を形成できる児童・生徒の育成を図ることができることから、積極的に取り組んでいきたい。

教職員においても合同研修会等を通じて、学び合える関係づくりの構築を進めたい。

※インクルーシブ教育

インクルーシブ教育とは、すべての子ども達が平等に学ぶために合理的配慮をおこなった教育システムです。



井手小学校と井手やまぶき支援学校とのパラバルーンでの交流

共同墓地の維持・管理は

奥山産業環境課長

必要に応じて実施

問 共同墓地の維持管理はどのようになっていくのか。

において通路整備・倒木対応等への対応はどうか。

答 井手地区は本町にて維持・管理、多賀地区は多賀財産区管理会にて維持・管理を実施。

答 令和7年度、井手地区は墓地内・通路の除草作業2回、多賀地区は6回実施。樹木伐採等は都度対応。

問 共同墓地の安全面



井手共同墓地の側道



中谷 祥彰 議員

井手町地域創生計画・井手町人口ビジョンの進捗状況は

坂井企画財政課長
平間総務課長

ほぼ人口ビジョンどおりの
微減傾向で進捗

問 人口を「増やす」ためにどのように取り組む、その結果はどうであったか。

問 住宅確保案を出すための話し合いの場や、専門担当の配置が必要ではないか。

答 学校給食費の全額補助などによる子育て支援、教育環境の充実、山城多賀駅前商業施設の開業による日常生活の利便性向上で、「子育て」「教育」「食料品・日用品の買い物」などに関し、満足度が上昇している。

答 本町の空き家対策に関して、令和7年度に井手町空き家対策協議会を設置。常設で専門家等の意見を聴取している。

今後、空き家の利活用についても協議していく。

問 「住宅の創出」の目標値300戸確保に係る、具体的な動きがあるのか。

答 現時点で、住宅の創出に係る具体的な動きはないが、空き家所有者などへの啓発による空き家バンク利用や、空き家流動化促進事業の活用による空き家の利用促進を図っていく。

問 「むすび家ide」の今後の取組と、再開時期、利活用の幅を広げることについての検討は。

答 昨年度に耐震改修工事が完了し、本年度より京都産業大学井手応援隊の活動拠点として、小学生の寺子屋が再開される。

他事業者や他団体と

の連携、施設の利活用についても井手応援隊と協議していく。

問 旧庁舎あり方検討会議が開催されたが、どのような意見があり、利活用についての考えは。

また、委員会の今後の予定は。

答 旧庁舎の現状や課題等の概要説明、ビジネスマッチングによる企業からの利活用の提案内容などの情報提供をしてきた。

委員からは「公官庁での利用」「本館等の貸し出し」「利用した際の安全確保は」「耐用年数的に利用可能年数は」「建物を売却」「更地で売却」などの意見をいただいた。

本町としては、地域資源としての活用ができないかと考えている。

検討会議の開催は、必要に応じ臨機応変に開催する予定。次回7月に予定している会議にて、様々な意見を伺いながら、最適な利活用方法について検討したいと考える。



第3期井手町地域創生計画 井手町人口ビジョン

こちらのQRコードから
ご覧になれます。



未来を育てる井手町へ



木村 健太 議員

LINEを活用したアンケートの考えは

坂井企画財政課長

有効性を検討したい

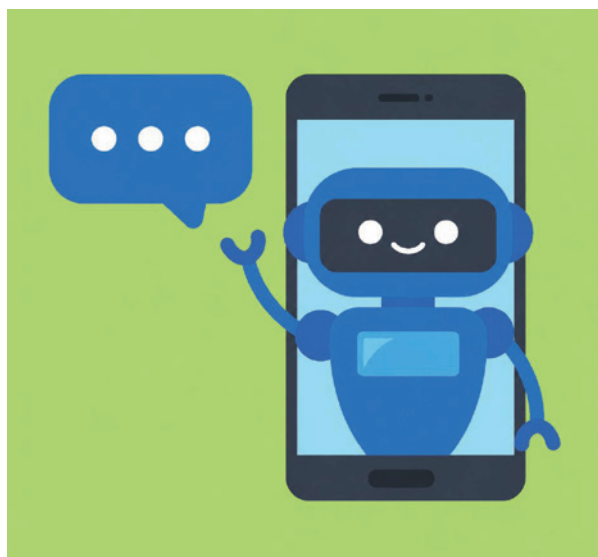
問 住民の声を広く聞くため、LINEを活用した簡易アンケート調査実施の考えは。

答 機能「」を導入する考えは。

答 ニーズや課題を可視化でき、事業運営に有効と認識している。参加者の年齢など考慮し検討したい。

問 24時間いつでも自己解決出来る「チャットロボット機能（自動応

答 有効性が見込める一方、課題もあると聞く。導入には慎重な検討が必要。現在は住民の方々が必要な情報に最短でたどり着ける、ホームページ内の導線改善に努めたい。



24時間働く頼れるパートナー

狭い道路沿いの空き家が放置されるリスクは

坂井企画財政課長

放置されないよう流動化を図りたい

問 重機や車両の進入困難な狭隘道路（狭い道路）沿いの空き家物件の現状は。

や上限額を段階的に引き上げる「加算措置」を設ける考えは。

答 令和5年度の調査では約15件、その中に特定空き家等はない。

問 接道状況や重機進入可否に応じた補助率

答 今年度予算に計上した空き家の取引に係る仲介手数料補助金制度により、空き家の流動化を促進し、放置すれば倒壊や管理不全空き家等となる空き家の発

生予防に努めたい。

問 狭隘道路沿いの空き家が放置されるリスクについて、本町の考えは。

答 管理されないことによる老朽化、災害時の避難・救助の際の支障や、建築基準法により建て替えが出来ないなど考えられる。

空き家が放置されないよう、専門家による相談会や固定資産税・都市計画税納税通知に空き家に係るチラシを同封し適正管理の働きかけや、空き家バンク登録など空き家の活用についての情報提供や周知により空き家の流動化を図りたい。



今後柔軟な対応を



鶴田 慶祐 議員

道路照明環境の改善と 定住促進への影響は

夢本安心・安全推進課長

「誰もが安心して暮らせるまち」の実現
を通して、移住・定住につなげたい

問 街灯の総設置数・
管理主体の内訳は。

答 総数は約1400
基。国、府、町および
商工会の管理となつて
いる。

問 街灯間隔の設置基
準は。

答 「道路照明施設設
置基準」に基づき設置。
生活道路の数値基準等

はない。各区からの要
望に応じ、必要な箇所
への設置に努めている。

問 「夜間が暗い。怖
い」という住民や移住
検討者からの声を町と
して把握しているのか。

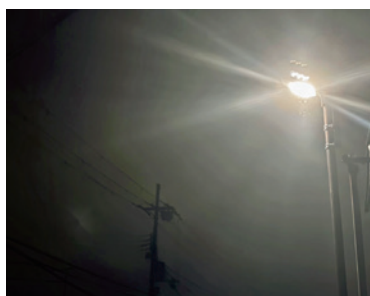
答 各区長を通じて要
望書を提出し状況を把
握している。移住相談
等の機会にヒアリング
を行い、ニーズの把握

に努めている。

問 既存街灯のLED
化の進捗率は。

答 平成28年度より計
画的にLED化を進
め、令和元年度に更
新を完了している。

問 移住促進の観点
から、居住エリアの
夜間照明の改善を施
策として位置づける
考えは。



町内の街灯（例）

答 「第3期井手町地
域創生計画」において、
安心・安全を守るイン
フラ整備の一環として、
交通安全施設の整備を
位置づけている。

行政DX推進と住民サービスの デジタル化は

坂井企画財政課長

近隣自治体の状況を
注視しながら検討していく

問 各種行政手続きの
オンライン化の進捗状
況は。

答 コンビニエンスス
トアでの住民票の写し
など、公的証明書の取
得、マイナポータルと
連携し転出手続きのオ
ンライン申請や税の申

請は。
問 デジタルデバイド
対策は。

答 いづみ人権交流セ
ンターで、60歳以上の
方を対象にパソコン教
室や、LINE、イ
ンスタグラムな
どSNSの使い
方を学ぶスマー
トフォン・タブ
レット講座を実
施。障がい福祉
事業所や町内障

がい者団体と連携し、
スマートフォンの使い
方講座の開催にも取り
組んでいる。

問 町内の空き家や総数
は。

答 令和7年度末時点
で142件。

問 空き家を地
域資源化するた
めの施策は。

答 空き家再生
支援事業による
残置物撤去費用
助成に加え、本



空き家を地域の力に

空き家対策は

坂井企画財政課長

管理不全の空き家となら
ないよう働きかけている

年度から空き家の流動
化の促進を図ることを
目的に仲介手数料補助
に取り組み、さらなる
支援体制の構築を検討
していく。



デジタルでつながるまち



鎌田 隆 宏 議員

プロスポーツチームとの ホームタウン協定について

寺井社会教育課長

実効性のある事業に
取り組みたい

問 ホームタウン協定では、プロスポーツチームからどのような支援や協力を得られているか。どのような事業や展開が可能になるか。

答 ホームタウン協定では、試合会場にて本町PRブースの無料設置。

問 どのような活動イベントが行われ、成果や手応えは。

答 京都サンガF.C.、京都ハナナリーズによる試合観戦を無料や特別優待価格で招待するホームタウンデーの開催。スポーツ教室の開催。

るきつかけとなった。またPRブースの設置により、全国的にまちづくりのPR活動を発信できた。

今後、情報発信をさらに進め、スポーツ活動の振興の充実を図り、実効性のある事業に取り組んでいく。



衛星回線によるプロ選手による遠隔指導

国道24号「城陽井手木津川バイパス」の 進捗状況と、今後の見通しは

仁木建設課長

全線開通の早期実現に向け
要望活動を展開

問 用地買収の進捗状況は。

答 上井手地区の21件、全ての地権者と契約済。多賀地区の77件中63件

の地権者と契約済。

問 バイパス道路全体の事業費と今年予算化された事業費は。

答 国における全体事業費は、300億円の見込み。令和8年度の予算で11億円が計上。

問 工期の長期化が考えられるが、着実な整備促進について今後の

見通しは。

答 本路線が平成31年4月に新規事業化されて以降、国に対して全線の早期完成及び整備を強く働きかけ、周辺における地籍調査を優先して進めるなど万全の協力体制で取り組んできた。今後も全線開通の早期実現に向け、国に対して要望活動を展開していく。



国道24号「城陽井手木津川バイパス」才田川橋の橋梁下部

議長活動報告

井手町議会を代表して出席・参加した会議や研修会について、
学んだこと・感じたことをお伝えしていきます。

地方創生と人口減少社会の課題を学びました。

脇本 尚憲



全国から町村の議長が集まりました

2日目は、東京消防庁の「消防博物館」を視察しました。

江戸時代から現代に至るまでの消防の歴史に触れながら、防火と防災の大切さを改めて学ぶことができました。

長い年月の中で、火災や災害と向き合い、試行錯誤を重ねてこられた多くの方々の歩みや、その記録・資料に触れることで、私自身も現役の消防団員として、これからも地元の皆さんの生命と財産をしっかりと守り抜く決意を新たにしました。

5月26日に東京国際フォーラムで開催された「町村議会議長・副議長研修会」に、井手町を代表して出席しました。

今回の研修では、「地方創生の先行き」、「人口減少社会における外国人材の確保・育成の実践」、「男女共同参画で地域を元気に」の三つのテーマについて、専門家の先生方からご講演をいただきました。

いずれのテーマも、人口減少社会をいかに乗り切るかという点で共通しており、現在本町が直面している課題そのものでもあります。私自身、大変強い関心を持って研修に臨むことができました。

今回学んだ内容を井手町に持ち帰り、今後の井手町議会の取組の一つとして具体化し、町政に生かしていかなければならないと強く感じました。



実際に使用されていた防災ヘリコプター

国道307号改良促進協議会

総会報告

道路改良は混雑緩和・安全確保に

深く連動すると再認識

鎌田隆宏

令和8年度「国道307号改良促進協議会総会」に、議長代理として出席いたしました。

総会では、令和7年度の事業報告および収支決算、令和8年度の事業計画案および収支予算案が審議され、いずれも原案通り可決・承認されました。また、国や関係機関に対する、さらなる改良促進に向けた要望活動の強化が確認されました。

本町には国道307号は通過していませんが、現在整備が進められている国道24号「城陽井手木津川バイパス」は、城陽市内で国道307号と平面交差（接続）する計画となっています。国道307号の渋滞緩和や道路改良が進むことは、将来的にバイパスを経由して本町へ流入・流出する交



総会に議長代理として出席しました

通の円滑化に直結します。国道307号の改良は単なる一幹線の整備に留まらず、国道24号「城陽井手木津川バイパス」の早期全線開通や、町内の交通混雑緩和・安全確保に深く連動していることを強く再認識いたしました。

山城地区議長連絡協議会

定例会報告

山城地区の共通課題について

意見交換を行いました

脇本尚憲

5月22日に精華町役場で開催された、山城地区議長連絡協議会定例会に出席してきました。この協議会の目的は、山城地区共通の問題を調査研究し、それぞれの議会の連絡・協調を図り、地方自治の振興・発展に寄与することを目指すこととした協議会で、参加自治体は宇治市より以南の15市町村が参加しています。

各市町村の議長が一堂に会し、

山城地域の抱える様々な課題に対して意見交換ができてとても有意義な会となりました。

協議会終了後は、精華町にある国立国会図書館関西館の見学を行いました。

国立国会図書館関西館



井手町を代表して出席しました

は、平成14年に開館され現在2000万点の本が所蔵されており、原則18歳以上の方であれば利用が可能であり、1日200人から300人の方が利用されているとのこと。日本で発行されているほぼすべての書物を国立国会図書館では、保管・管理されているため関西館では令和2年に新たに書庫棟を建設し対応しているとの説明を受けました。

議会の主な公務（令和8年4月から6月まで）

4月分

日	曜日	公務内容	出席議員
4月7日	(火)	交通安全運動街頭指導	奥田議長、鎌田議員、木村議員、谷田健治議員、脇本議員
4月8日	(水)	井手小学校入学式	脇本議員（地元議員も）
		多賀小学校入学式	奥田議長（地元議員も）
		令和8年度井手町スポーツ協会総会	奥田議長
4月9日	(木)	泉ヶ丘中学校入学式	奥田議長（全議員対象）
4月12日	(日)	令和8年度井手町スポーツ協会総合開会式	奥田議長（全議員対象）
		若松会・若竹会総会（老人クラブ）	奥田議長（地元議員も）
4月13日	(月)	井手町文化協会総会	奥田議長
4月15日	(水)	交通安全運動街頭指導	岡田議員、小割議員、田中議員
4月19日	(日)	玉川年輪会（老人クラブ）	田中議員
4月24日	(金)	例月監査	岡田議員
4月26日	(日)	北斗会・七星会総会（老人クラブ）	奥田議長（地元議員も）
		上井手壮寿会4月例会（老人クラブ）	奥田議長（地元議員も）

5月分

日	曜日	公務内容	出席議員
5月20日	(水)	井手町商工会第66回通常総会	脇本議長・木村議員
5月22日	(金)	山城地区議長連絡協議会定例会	脇本議長
		令和8年度井堤保勝会総会	田中議員
5月25日	(月)	例月監査	奥田議員
5月26日	(火)	令和8年度町村議会議長研修会・臨時総会・国政懇談会	脇本議長
5月27日	(水)	国道307号改良促進協議会総会	鎌田副議長
		令和8年度第1回井手町立保育園あり方検討会議	脇本議長・鎌田副議長
5月28日	(木)	井手町民生委員推薦会	脇本議長・鎌田副議長

6月分

日	曜日	公務内容	出席議員
6月4日	(木)	全国高速道路建設協議会第62回総会・京都府高速道路網整備促進協議会要望活動	脇本議長
6月10日	(水)	井手地区「社明運動」推進委員会	脇本議長
6月15日	(月)	井手町営住宅等入居者選考委員会	脇本議長
6月24日	(水)	例月監査	奥田議員

いでたんが聞く

新米記者いでたんが町に出かけて、まちのこいろいろ聞いてみます。

今回は井手町で活動されている

「集まれ井手町プラス(あついで)」の

代表者 にししま たかあき 西島 誉晃さんにお話を聞きました!



いでたん



活動内容や個人的なこと、いろいろ聞いてみました!



設立のきっかけ、これまでの歩みは?

井手町をもっと楽しく、活気ある町にしたいという思いから、2021年に有志で発足しました。



活動を振り返り、とくにやりがいを感じたエピソードは?

マルシェやイベントで住民や来場者の笑顔に触れ、地域のつながりが広がっていく瞬間にやりがいを感じます。



今後チャレンジしたいことや目指すビジョンなどは?

若い世代や移住者、町外の人も自然に集まり、井手町の魅力を感じられるにぎわいの場をつくりたいです。



活動の原動力となっている、地域への熱い思いをお聞かせ下さい。

人情味があり、自然豊かで歴史ある井手町の魅力を、みんなで育て、次の世代へつなげていきたいです。



こっそり聞きました…西島誉晃さんはどんな人?

- 好きな食べ物は…お寿司、焼肉
- 座右の銘は…不撓不屈
- 休日の過ごし方は…こどもの試合観戦
- 趣味は…バスケット、野球



どのようなメンバーで活動されていますか?

井手町を愛する住民や関係人口を中心に、農家、事業者、子育て世代など多様なメンバーで活動しています。



逆に苦勞されたことや見えてきた課題などは?

メンバーがそれぞれ忙しい中での時間確保や、活動を継続して広く発信していくことに難しさを感じています。



どのような取組やイベントを行なっていますか?

マルシェ、夏祭り、冬祭り、農業体験、特産品開発、移住について語り合う交流イベントなどを行っています。



「あついで」開発特産品

取材協力ありがとうございました!!